

岐阜大学工業倶楽部 関西支部

設立10周年記念誌（会報 第10号）



2019年 5月

目 次

関西支部 設立10周年を迎えて・・・・・・・・・・・・・・・・	1
関西支部長 木内 尚之	
岐阜大学工業倶楽部 関西支部 設立10周年に寄せて・・・・・・・・	2
岐阜大学長 森脇 久隆	
関西支部 設立10周年に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・	2
岐阜大学工学部長 村井 利昭	
関西支部 設立10周年に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・	3
岐阜大学工業倶楽部会長 坪内 繁樹	
関西支部 設立10周年に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・	4
西濃支部長 片岡 幾男	
関西支部 設立10周年記念に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・	4
関東支部長 堀尾 義矩	
関西支部 設立10周年に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・	5
関西支部 初代支部長 藤井 孝友	
関西支部 設立趣旨書・・・・・・・・・・・・・・・・	5
記念講演 「空力浮上高速交通システム エアロトレイン」(概要)・・	6～7
岐阜大学工学部 機械工学科 准教授 菊地 聡	
関西支部「2018年度 事業報告」・・・・・・・・・・・・・・・・	8～10
役員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・	11～14
関西支部 10年の歩み・・・・・・・・・・・・・・・・	15～18
関西支部 歴代役員履歴・・・・・・・・・・・・・・・・	19
関西支部 規約・・・・・・・・・・・・・・・・	20
関西支部 細則・組織図・・・・・・・・・・・・・・・・	21
「関西支部 設立10周年記念 定期総会」の開催について・・・・・・・・	裏表紙
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・	裏表紙

<表紙>

今回は、毎年発行していましたが会報を「関西支部 設立10周年記念」に因んで、『**関西支部 設立10周年記念誌(会報 第10号)**』といたしました。

表紙のデザインは、「設立総会」より毎年開催していましたが「定期総会」資料の表紙を形どって「10」の文字とし、その輪郭を我々の母校である岐阜大学と関連の深い「長良川の水色」をイメージし、その中を母校カラーの「オレンジ」で埋めました。

また、時同じくして迎えます「岐阜大学 創立70周年」のロゴマークも使用許可をいただいて、付けさせていただきました。

関西支部 設立10周年を迎えて

関西支部長 木内 尚之（1969年 機械工学科）

元号が、新たに「令和元年」を迎えるにあたり会員、同窓生の方々にはご健勝の事と存じます。

さて、関西支部は、記念すべき設立10周年を迎えることが出来ました。これも偏に会員の皆様方をはじめ、岐阜大学、岐阜大学工学部、岐阜大学工業倶楽部とその各支部など、関係各位の多大なるご支援、ご協力と歴代役員各位の献身的なご努力の賜と厚く御礼を申し上げます。

思い起こせば2009年、関西支部設立に際して、当時の工業倶楽部会長 磯貝 徹様、同専務理事 檜和田 宗彦様、初代支部長の藤井 孝友様のご尽力と設立準備委員会に参加された皆様方の熱意と努力の結晶により、発足にこぎつける事が出来ました。支部設立に伴う当時の苦労話、エピソードは、藤井様の10周年記念誌への寄稿にお願い致しまして、私が支部長を務めさせて頂いた、その後の4年間の活動について述べさせていただきます。



設立総会では、会員数135名、総会参加者66名で盛大にスタートしましたが、その後、月日が流れて、支部会員の高齢化等が進み退会者が続出しましたことで、総会参加者も40名ほどに激減いたしました。そこで、何とか新入会員を増やすべく活動として、関西の主要企業12社の卒業生をターゲットにした「キーマンネットワーク活動」、「企業で定年を迎える前後の年代に絞っての勧誘活動」、若い世代を対象にした産学連携と組み合わせた「イノベーションプロジェクト活動」、更には大学の先生に「関西地区に在住・勤務されている卒業生のご紹介をお願いして勧誘する活動」等を積極的に展開しました結果、会員数148名、総会参加者は50名ほどに増加いたしました。

また、年に一度の定期総会と行事委員会によるゴルフコンペ（交流会）、見学会に加えて、何か会員相互の交流活動が出来ないかと役員の方々々と相談して「同好会活動を展開しよう！」と決まり、ゴルフ同好会、麻雀同好会を立ち上げて定期的に会員の交流を深めています。出来れば美術同好会の様な文化活動の同好会が出来れば、より広範囲な活動になると考えています。

私が担った4年間において、国内では大規模震災、大型台風、豪雨など、今までにない多くの自然災害に見舞われました。海外では北朝鮮の核ミサイルや核実験、英国のEU離脱、中東の戦闘の激化、アメリカと中国の経済戦争と大きく揺れ動きました。しかし、日本経済は、おおむね平成の好景気が続きましたが、「令和」に元号が変わり景気も緩やかな下降域に入りますものの、好景気と言われるレベルが維持されると思います。

一方、同窓会活動を取り巻く環境は、若い世代の無関心層の増大、企業では学歴の抹消、個人情報保護の為の情報非公開・非協力、同窓生の企業間の交流禁止など、決して好ましい状況ではありません。これらの状況に対処するため、会員相互の“絆”を深めるべく「定期総会での交流のあり方」、「イノベーション活動」や「同好会活動」の拡大、「他同窓会組織との交流」などを検討しています。

関西支部では、これまで同様に岐阜大学、工学部、工業倶楽部など関係皆様のご支援、ご協力を頂きながら、同窓会連合会との連携の上、岐阜大学の学部の垣根を越えて、更なる拡充を図り、会員の皆様、岐阜大学に貢献できるように努めて参ります。

今後とも、会員の皆様をはじめ、関係の皆様方のご支援、ご協力を切にお願い致します。

岐阜大学工業倶楽部 関西支部が、この度設立10周年を迎えられました。心よりお祝い申し上げます。私自身も同じ関西（兵庫県）出身なので親近感を覚えますと共に心強く嬉しく思います。

言うまでもなく岐阜大学工学部は、岐阜大学全体の4割を超える学生数を有し、かつ大学院修士課程への進学率もおおよそ7割と、規模、教育・研究内容のいずれにおいても諸部局を代表する存在です。当然、多くの卒業生が、現役あるいはOBとして全国各地でご活躍されており、これらの方々からさまざまな便りやニュースなどを拝見するのが楽しみです。

さて岐阜大学は2016年から2022年まで、いわゆる（大学法人化後の）第3期において「地域活性化の中核拠点」であると同時に「強み・特色を有する分野において全国的・国際的な教育・研究拠点の形成を目指します」と謳っています。後者の拠点は4つあり、分野的には医学教育学（全国唯一のセンター）、生命科学（特に糖鎖科学）、環境・エネルギー科学、ものづくり科学です。いずれも従来の研究を格段に進歩させるものですが、特に工学部関連として地方創生エネルギーシステム研究センターは、地域サイズの大小に応じた最適のエネルギーシステムを提案し、社会実装により検証する点が特徴です。また、地域連携スマート金型技術研究センターは、AIとIoTを組み込んだ次世代の金型技術開発が特徴で、グローバル企業群との共同研究が一気に10講座立ち上がりました。更に、インフラミュージアム（メンテナンス・エキスパート教育の為の屋外施設）やGUコンポジットセンターなど、最近3年間の工学部の展開は目を見張るばかりです。加えて今年一番大きなニュースは名古屋大学との法人（管理・運営部門）統合です。これは1法人の下に岐阜大学と名古屋大学をぶら下げ、効率的経営の元、両大学の教育・研究機能を一層強化することが目的で、2018年12月25日に基本合意書を締結、2020年4月1日創設を目標に作業が急ピッチで進んでいます。私どもの名称は現在の「国立大学法人岐阜大学」から（仮称）「国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学」となります。先に述べた強み等はそのまま岐阜キャンパスに置かれ、機構全体の強みとなっていきます。

私どもはこのような大きな変革の中、今後とも学部と大学全体の発展に向け、鋭意努力して参りますので、岐阜大学工業倶楽部関西支部の皆様から一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願いし、設立10周年記念誌への寄稿といたします。終わりになりますが、皆様方と工業倶楽部の一層のご健勝をお祈り申し上げます。



関西支部 設立10周年に寄せて

岐阜大学工学部長 村井 利昭

2009年4月に発足しました岐阜大学工業倶楽部関西支部が本年、10周年を迎えられますこと誠にありがとうございます。発足以来の歴代の支部長様、事務局長様を始めとしまして多くの方々のご尽力で、現在の隆盛を迎えられていること嬉しい限りです。多感な10代後半の頃から、岐阜大学のキャンパスで過ごして、そこで学んだこと、その実体験が糧となり、多くの若者が岐阜大学を巣立って行きます。卒業式、修了式では、今後豊かな人生を過ごして欲しいという思いで、証書や賞を手渡します。それから5年、10年、数十年後、たとえばここでは関西が生活の拠点となった卒業生の方々が、岐阜大学工学部の出身であるということで集い、行事や会が企画されて、昔話や現在の状況などが話題になって大いに盛り上がります。そこではあの10代後半から過ごした当時の、言葉にはできない、共通の息遣いを感じておられるのではないのでしょうか。

さて1942年工学部の前身である岐阜県立高等工業学校が、羽島郡笠松町に設置され、その10年後岐阜大学工学部となりました。工業倶楽部会員である多くの方が学ばれた各務原市那加キャンパスは、1981年岐阜市柳戸に移転されました。それからすでに40年足らずが経過しました。工学部講義棟西側で植えられたメタセコイヤ、移転当初は小さな木々だったのが今では工学部棟の7階あたりまで育っています。4月半ば頃までは目立たない茶色がベースだったのが一斉に若葉が現れて、新入生を迎え入れています。この季節感あふれる工学部は現在、社会基盤工学科、機械工学科、化学・生命工学科ならびに電気電子・情報工学科の四学科で構成されています。工学部発足当初の「工学に含まれる学問分野を概ねカバーする」という基本を守り、2013年の学科改組を経ても、2007年からは510名の学生定員を有しています。卒業後には6割程度の学生が大学院へ進学し、学びを継続しています。一方で18歳人口が10年後には今より10万人程度減少すること、高等教育の現場にも競争原理を導入せよという流れの中、工学部が生き延びるためには何をすべきかは現在の大きな課題の一つです。

そんな中、独特の文化や経済圏を持つ関西で過ごされている皆様には、課題や困難を物ともしないという意気込みが熟成されているのではないのでしょうか。その関西支部の活動を通して、これからも多くの会員の方々が集い、益々発展されることお祈りしております。また現在の工学部へのアドバイス、提言、要望など、なんなりとお伝えいただけますようお願いして、関西支部設立10周年へのお祝いの言葉とさせていただきます。



岐阜大学工業倶楽部関西支部の会員の皆様には、益々ご健勝でご活躍のこと並びに設立10周年誠にお慶び申し上げます。平素は工業倶楽部の活動・事業にご協力、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。関西支部におかれましては、活発な委員会活動、企業紹介、会員同士の交流会や見学会、また大学との共同研究を目指された関西支部独自のイノベーションプロジェクト活動も積極的に行っていただいております。支部役員・会員の皆様に感謝申し上げます。



今年は全国的に暖かく晴天に恵まれた平成最後の新年となりましたが、昨年世界において今までの「自由で開かれた世界」と自国ファーストを唱える「閉鎖的な世界」と2極化してきており、今後どのように変遷していくか？混沌としています。国内では昨年も日本人がノーベル賞を受賞され、また卓球、バドミントン、フィギュアスケート、テニス等のスポーツ界や将棋・囲碁・オセロ等の競技大会においても若い人達が国際大会で輝かしい成績をおさめており、日本人も精神面でも非常に強くなったと感じています。来年の東京オリンピックでの活躍が大いに期待できます。

さて、世界経済は米国、中国、欧州、日本も含め全世界的に景気が拡大してきましたが、昨年後半から米中の貿易紛争の影響により特に中国の景気後退が鮮明になり、また英国のEUからの離脱問題等もあり、今年は不安定な経済状況が続くと思われまます。しかしながら、日本は来年の東京オリンピック、2025年の大阪万博と大きなイベントが目白押しにあり、景気拡大が続くものと考えられますが、最近日本のものづくりの信頼が少し揺らいできている状況が気になるところです。主要産業である自動車業界においては世界的に電動化、自動運転化の流れが加速し、さらにAI技術を使った情報システムや様々な製品が開発され、市場が拡大してくると思いますので、もう一度「日本の高い信頼性のものづくり」を再構築しなければ世界から取り残されるのでは？と危惧され、現役の皆さんに頑張っていただきたいと思ひます。

このような環境の中、今年岐阜大学は「創立70周年」を迎え、様々な事業が企画されており、工業倶楽部としても積極的に支援させていただくとともに、関西支部の会員の皆さんも多くの方のご支援をお願いします。また、岐阜大学は少子化の流れの中での生き残りをかけ、先日名古屋大学と傘型方式での統合が合意されましたが、岐阜大学の名前が無くなるわけではないとのことですので、ご安心ください。また、大学では従来から「学び、究め、貢献する大学」の理念の下に、「2025年の将来ビジョン」が制定され、そのビジョンに基づき様々な活動がなされ、地域に根ざし、地域に還元する「グローバル」な大学を目指されています。また、より社会に役立つ大学院生の育成のための「大学院の改革」にも取り組まれています。また、大学としてもグローバル化に対応するために海外の多くの大学と学術交流協定を締結され、国際化も推進されています。このような岐阜大学の活動の状況を卒業生の皆さんにもっと知っていただく機会の提供、あるいは各学部同窓会との交流を深めることを目的に、年2回「同窓会連合会の集い」が開催されており、今年は東京での開催を予定されています。東京での開催が成功裏にできましたら、次は関西での開催も検討していただくようお願いしたいと思ひますので、期待しておいてください。

また、工学部におきましても、学部生から大学院生に向けて課題解決能力（デザイン思考）を養成する教育も新たに導入され、より社会に役立つ人間を育成されようとしています。また、「生命の鎖統合」、「次世代エネルギー」、「次世代金型技術」、「知能科学」、「応用気象研究」等の研究センターが併設され、社会のニーズに対応した技術研究を行う体制づくりが図られ、企業・団体との産官学連携による共同事業も積極的に推進されていますので、工業倶楽部としても関西支部で活動されているイノベーションプロジェクト活動への橋渡し役をしたいと考えています。お気軽に相談ください。

昨年は、工業倶楽部の念願でありました「中部地区での支部」が発足し、関西・関東・中部・西濃と全国を網羅できる支部体制となりました。会員皆さん相互のきめ細かな活動や交流は、やはり地域ごとの支部活動によって図れると考えていますが、どの支部も会員数の伸び悩み、後継者不足の課題を抱えており、工業倶楽部としてももっと多くの卒業生の方々にどこかの支部に入会していただくように検討会を開始いたしました。この検討会には支部役員の方にも参加いただいております。支部の意見も取り入れながら対策を考えていきたいと思ひますので、今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後に、関西支部の活動が益々活発化し、今後20年、30年と将来に亘って存続、発展するように工業倶楽部も支援していきますので、今後ともよろしくお祈り申し上げます。

関西支部 設立10周年に寄せて

西濃支部長 片岡 幾男

岐阜大学工業倶楽部関西支部の設立10周年、誠におめでとうございます。発足以来、貴支部役員及び会員の方々の日頃の努力・熱意に改めて敬意を表すると共に心からお慶び申し上げます。

関西支部の活動に付きましては、毎年発行される会報を通じて各委員会の報告や企業紹介、会員同士の交流会・見学会などの内容を拝見しております。又、総会時には学科別交流会など関西支部特有の活動も続けられております。それらの幅広い活発な活動に対して見習う所が多々あると感心しております。支部のテリトリーが2府4県と言う広域に跨るが故に会員の勧誘や連携、その他日頃の連絡や会合の在り方の苦労や問題を抱えながらも有意義な活動内容に役員・会員の皆様のご努力を感じます。

昨年、私共の西濃支部は設立15周年、関東支部も設立10周年を迎えました。又、昨年10月には中部支部が発足し工業倶楽部の下に4支部体制になり、工学部の卒業生の大半の方がどこかの支部に所属できる体制が出来上がりました。

しかし、どこの支部におきましても卒業生の皆様が工業倶楽部の各支部の存在と意義を認識し、会員として参加して頂けるかどうかは共通の課題であると思っています。そのためには工業倶楽部と各支部が連携し、卒業生が参加しやすい環境を造り上げていく事が重要であると考えます。関西・関東・西濃の各支部は設立時に苦勞された諸先輩から次世代のメンバーに入れ替わる節目を迎えています。

今後とも支部を安定的に継続させるためには、次世代を担う後継者に活動を引き継ぐ必要があります。そのためには、地域の卒業生に魅力を感じてもらえる講演会や行事などを計画し、卒業生に参加を呼び掛けて支部活動の意義などを理解してもらう事が肝要かと思えます。又、それらの諸事業に参加された会員の方が会社・地域や知合いを通じて支部活動の状況を伝えて頂き、より多くの方に知ってもらう努力が支部にとっては必要ではないでしょうか。工業倶楽部と4支部が協調しお互いの活動を見つつ、自らの支部の今後を考えていきたいと思う所であります。

最後になりますが、10周年を契機として関西支部の益々の発展と支部役員・会員の皆様のご健勝を祈念して祝辞とさせていただきます。



関西支部 設立10周年記念に寄せて

関東支部長 堀尾 義矩

関西支部設立10周年、誠におめでとうございます。

関西支部は関東支部とほぼ同時期に設立、本部の支援があったとは言え、関東支部同様、人（組織）、金（資金）、物（本拠地）のない状態から、これまでの役員の皆様の地道なお骨折りとご苦勞で拡充され、今日の設立10周年を立派に迎えられました。

特に関西支部は設立当初より事業として岐阜大学との産官学連携でイノベーションプロジェクト活動を推進されるなど活発な活動をされ、その成果も出ており、敬服致しております。

現在、国立大学を取り巻く環境は少子化、国立大学法人の経営の効率化などから文科省では中央教育審議会の答申に沿って1つの法人が複数の国立大学を運営できる「アンブレラ方式」導入を目指した法改正答申を目指す動きなど大きく変化しております。

その先陣を切って岐阜大学では名古屋大学との法人統合を検討されており、来る今年6月末の「岐阜大学創立70周年記念同窓会連合会関東地区での集い」では、これらに関する森脇学長のご講演が予定されております。

このような国立大学を取り巻く環境変化のなか、工業倶楽部の今後の活動は現状を十分に把握しながら更に充実させる必要があります。工業倶楽部は本部と支部との連携で成り立っていますが、1)現在の5支部が全国の工業倶楽部会員すべてをカバーしていない、2)本部・支部の関係が明確になっていない、3)関西支部などから提案の現在苦勞しています支部の基盤である会員数を増やす方策など多くの課題を抱えております。厳しい環境のなか、これらの課題対応のために本部にプロジェクト（PJ）を立ち上げられており、関東支部も関西支部はじめ他の支部と協働し、PJに参画するなど工業倶楽部、岐阜大学に少しでも貢献出来るよう努めて参ります。

関西支部設立10周年を立派に迎えられましたことをお祝い申し上げますとともに、今後の更なるご発展を祈念しております。



この度、設立10周年を迎えるにあたり、私なりの古い記憶を呼び起こし、設立前後の流れや状況について、ひとこと申し述べます。

2007年7月頃、岐阜大学工業倶楽部本部より個人的な関係を通じて、関西地区在住の清水 範生さん(1963年機械卒)、浅沼 良行さん(1964年機械卒)、阪上 丈一さん(1974年精密卒)と私、藤井の4名に岐阜大学工業倶楽部 関西支部を設立したく、是非協力して欲しいとの申し入れがありました。同年9月3日(月)に大阪駅前のホテルのロビーで1回目の説明会を開催しました。



本部からは、檜和田 宗彦専務理事(1969年機械卒、当時・機械システム工学科教授)と、三輪 与四朗理事(故人・1963年機械卒、当時・西濃支部事務局長)2名が出席され、同席の我々4名に関西支部設立の必要性とその推進について協力を要請されました。席上、我々4名からは、今更、何故関西支部が必要なのか、今の同窓会組織で十分でないか等の質問を出しましたが、本部側の説明や要請をそのまま受け入れるのは困難で、協議を続けることとしました。以後、協議の結果、大学及び工業倶楽部本部には、本支部“設立趣意書”に述べるような本支部設立の必要性があることを我々は理解し、支部設立準備に取りかかることにしました。

その後、2年近い時間と10数回の会合を要す等、設立推進と準備作業には多くの方々にご参加いただき、2009年4月に会員135名で関西支部を設立することができました。設立準備は多難な作業でしたが、その効果が今設立10周年となって現れていると思っています。

関西支部 設立趣意書

2008年12月1日

関西支部設立準備委員会

岐阜大学工学系卒業生で組織する工業倶楽部の会員で、関西の2府4県に居住する方々はおよそ2,000人です。関西地域にはこれまでまとまった同窓会組織がなかったため、ほとんどの方々は卒業以来大学とは無縁に過ごされてきたことと思います。中には先輩や同輩及び後輩などとの交流の場として学科や職場などで同窓会が組織され、局部的な活動が行われているケースもあると思いますが、残念ながら岐阜、愛知の中京地区以外で、工業倶楽部が主体となった同窓会行事が行われたことはありませんでした。工業倶楽部(本部)の活動は、会報や会員名簿の発刊が主であったため、この遠い存在をより身近で、かつ有効な組織に活性化させる必要性が大学と卒業生の双方から渴望されて参りました。一方、これまで「護送船団方式」で国家の手厚い庇護と統制のもとにありました国立大学は、2004年4月、一斉に独立行政法人に生まれ変わり、法人化の第1期目(2004年～2009年)では、101大学が86大学に統合されました。第2期目(2010年～2015年)には86大学を30大学にという構想が検討されています。御手洗日本経済連合会会長は2007年6月に、道州制との関連も念頭に置いたうえ、九州地区の各県に1つずつある国立大学法人を統合して、1つの「大九州大学」として、各県の大学にメリハリをつけて、たとえば、長崎大学を大九州大学医学部にしてはどの構想をうちあげました。中部経済連合会も2007年12月に中部地区の産官学の力を結集すべく「大名古屋大学」設立構想をうちあげました。折しも、5年目の2008年には各大学の間報告が出揃い、遅れた部分の是正が各大学に求められ、次期目標を見据えた大学法人評価も本格化することは必定でしょう。大げさに言えば、本学の存亡にかかわる段階にきていると言っても過言ではないかと思われま。

こういった状況のもとで、母校岐阜大学が持続的発展を遂げるための方法のひとつとして、同窓会組織である工業倶楽部の活動を活性化させ、大学と卒業生間の意思疎通を緊密化することにより、大学改革について何らかの支援ができるのではないかと考えています。具体的には、工業倶楽部組織を強化して卒業生動向の把握に努めると共に、各卒業生の要望を適切に把握することにより大学の更なる発展と飛躍への提言を行うことがあろうかと思われま。それを実現可能にするには、卒業生の組織化と現状把握が不可欠であり、そのためには支部組織の設立が急務です。活性化した支部と本部の協同により母校岐阜大学の評価向上に繋がるものと確信致します。また、関西支部としては、関西に立地する企業や研究機関などの技術情報や先端技術動向などと母校岐阜大学の基盤技術などの交流を推進するパイプ役活動を展開することにより、新たな技術開発の可能性が開け、母校岐阜大学の発展および地域社会に貢献できるのではないかと考えています。

以上、支部組織設立の必要性の一端を記述いたしました。設立により大学側からは卒業生の組織化と現状把握、卒業生側からは大学への要望とか注文の場が大いに開けるものと思います。皆様方の積極的なご理解とご協力をいただきたく宜しくお願いいたします。

以上

空力浮上高速交通システム エアロトレイン

岐阜大学 工学部 機械工学科
准教授 菊地 聡

私は、エアロトレインという翼を使って空力浮上し高速走行する乗り物の研究を行っています。図 1 はエアロトレインの完成イメージスケッチです。エアロトレインは、このように翼がついた列車のような形をしていて、ガイドウェイと呼んでいる凹形のコンクリート構造物の中を浮上走行します。浮上走行する列車というと、現在建設中のリニアモーターカーがありますが、リニアモーターカーが磁力を使って浮上走行するのに対して、エアロトレインは空気力を使って浮上走行します。翼が地面の近くにある時に発生する翼の地面効果を使うことで、消費エネルギーを少なくできます。消費エネルギーが少ないので、図 1 にあるようにガイドウェイの周りに太陽電池や風車を設置して、そこからの自然エネルギーだけでの運用を目指して研究開発を行っています。

エアロトレインは私の前勤務先の東北大学流体科学研究所の小濱教授が提案され、1985年頃から研究がスタートしています。はじめは翼の地面効果の基礎データを得るために、図 2 のような風洞実験をしていました。風洞実験で基礎データを十分蓄積した後に、1999 年から実際にモデルを浮上走行させるモデル走行実験を行っています。走行実験をするためには、走行させるガイドウェイが必要ですが、運良く、宮崎県にある JR 総研の宮崎実験センターにあるガイドウェイを無償で借りることができました。このガイドウェイは、もともとリニアモーターカーの実験に使用していたものです。私は、この走行実験の立ち上げ時に、小濱研究室の助手として着任し、走行実験には当初から携わって来ました。

これまで、3 機の走行実験モデルを作って実験して来ました。我々は、作った順に ART001、ART002、ART003 と呼んでいます。大きさは長さが 8.5m 程度、幅が 3.3m 程度の結構大きなモデルです。ART001 は研究費が少なかったため、低コストで軽量のモデルで、アルミパイプ、発泡スチロール、バルサ材、合成繊維の布でできていて、模型飛行



図 1 エアロトレイン完成イメージスケッチ

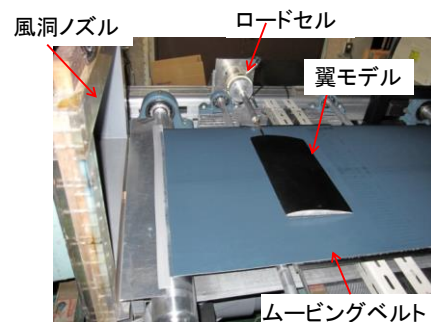


図 2 風洞実験 (岐阜大学内)

機を大きくした感じですが。この機体では、実際に浮上走行できることを実証し、走行実験方法を確立しました。ART002 はカーボン繊維強化プラスチックでできていて、軽くて丈夫です。この機体では、電動推進での浮上走行に成功し、最高速度 120 km/h を達成しました。ART003 は難燃性マグネシウムでできており、ART002 よりもさらに丈夫になっています。この機体では、最高速度 186 km/h での浮上走行と、有人浮上走行に成功しています。これら 3 機のモデルを用いて、エアロトレインが浮上走行する際に発生する挙動などのデータを得ることができ、さらに、本当にエアロトレインが実現可能であることを実証できました。講演では実験映像などを用いて、これまでの走行実験の過程を紹介します。

このような走行実験は、2011 年でプロジェクトが終了し、これ以上の研究開発は内容的にも予算的にも企業が主体になる段階なので、現在は走行実験は行っておりません。今は、図 2 のような風洞実験により、より効率の良い翼の開発や、実用化を想定した際に、往復走行が必要となるので、往復走行に対応した前後対称翼の研究などを行っています。

エアロトレインの研究は、マスコミからの注目度も高く、走行実験を行って 2010 年には TBS テレビの「夢の扉」、2011 年にはテレビ朝日の「ナニコレ珍百景」で取り上げられました。また、最近では、2016 年 9 月に NHK で放送された「超絶凄ワザ」に翼の地面効果で出演しました。テーマは紙飛行機の飛距離対決で、地面効果を使った紙飛行機で対決してほしいというものでした。私は小濱教授の東北大学のグループとチームを組んで、これまで得た地面効果の知識を活用して勝負に臨んだのですが、模型飛行機を趣味とする方々には、全く歯が立ちませんでした。勝負には負けてしまいましたが、エアロトレインを一般の人に知ってもらうことができ、良かったと思っています。また、エアロトレインの話は高校への出前講義でも行っており、毎年 2 件ほどの依頼を受け、高校生に講義をしています。乗り物の話はわかりやすいので、高校生の受けも良く、好評です。

ART001 1999年～2001年



ART002 2002年～2009年



ART003 2010年～



図 3 走行実験モデル



図 4 凄ワザ 出演者写真

関西支部「2018年度 事業報告」

◇総務委員会◇

総務委員長 大森 和男

(1) 第10回定期総会・記念講演・特別講演・懇親会・学科別交流会

2018年6月10日(日)茨木市福祉文化会館(オークシアター)において、来賓に岐阜大学 王 志剛副学長、工学部 六郷 恵哲名誉・特任教授、岐阜大学工業倶楽部 坪内 繁樹会長、同部 内田 裕市専務理事をお招きし、総勢38名で第10回定期総会を開催いたしました。

総会では、報告事項として2017年度事業報告・会計報告・特別会計報告・会計監査報告がなされ、続いて決議事項として役員異動(案)、2018年度事業計画(案)・予算(案)が審議され承認されました。

記念講演は、六郷名誉・特任教授から「地域のインフラメンテナンス分野への岐阜大学の貢献」という演題で、ご講演をいただきました。全国に先駆けて10年前にスタートした「人材育成としての社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座」が果たした役割は大きく、活動によって400余名もの人材を輩出する等、大きな成果を上げられています。昨年完成した「インフラミュージアム」は、トンネル・橋梁等の新旧モデルの変遷や建設過程の実例を実物で学習でき、建設経験の無い人でも構造物を見ることで知識・理解をより深めることができる等、維持管理者育成の意義は大きい。最後に「ロボット技術を取り入れた橋梁点検」では、ロボットカメラやドローン等の新技術を活用した点検の効率化と高度化がなされており、大学が地域課題解決のための技術的な“要”を担って活動されていることが良く分かりました。

引き続き、特別講演として王副学長から「岐阜大学の現状報告と産学連携推進状況について」という演題で、ご講演をいただきました。大学の「将来ビジョン(森脇ビジョン)」の説明があり、昨年度から大きく進展している紹介がありました。産学連携においては、岐阜・愛知の地元企業が半数と高く、ライフサイエンス、ナノテクノロジー・材料の分野が中心となっており、そのメリットから今後も積極的に取り組んでいくとのことでした。

最後に、現在の知財収入を支えている産学連携による特許取得技術の実例の紹介がありました。

懇親会では、来賓の坪内工業倶楽部会長の挨拶で始まり、内田工業倶楽部専務理事の乾杯、恒例のマッキーノゲームでは、参加者全員がコメントをしていただき相互の懇親を深めることができ、有意義な会となりました。

学科別交流会は、今回は、初めての試みとして来賓の先生方にも参加していただき、機械系、化学・繊維系、土木系、電気・精密系の4グループに分かれて実施しましたが、関西支部があることを知らない卒業生がまだまだ多く知名度アップを図るべき等の貴重なご意見をいただきましたので、今後の活動に反映したいと思います。



第10回 定期総会 ご出席の方々



六郷 名誉・特任教授による記念講演



王 副学長による特別講演

(2) 役員会の開催 5回(7/14、11/17、1/26、4/20、5/25)開催しました。

<イノベーションPJ活動>

イノベーションPJ委員長 青山 勝沖

昨年5月に岐阜大学 研究推進・社会連携機構 産官学連携本部より「産学連携アドバイザー」の委嘱を制度発足第1号として5名が取得しました。これを活用した支部有力企業との産学連携共同研究については、残念ながら企業側の事情等もあって中断していますが、再開に向けて調整中です。

<設立10周年記念事業PJチーム> 設立10周年記念事業PJチームリーダー 米元 孝博

2019年4月に迎えます「関西支部 設立10周年」の記念事業の企画を検討してきましたが、支部にとって最大のイベントである「定期総会」については、「関西支部 設立10周年記念定期総会」と称して、関西らしく「おもしろ、おかしく世代を超えて関西の絆を深めよう！」をテーマに岐阜大学出身の落語家やプロ級のマジシャンの出演を企画しました。

また、毎年発行しています会報を「設立10周年記念誌」として発行すべく関係各位に投稿を依頼するとともに、支部の設立から今日までに至る10年間の歩みを分かり易く、思い出していただくために写真を主体に編纂します。

◇会報編集委員会◇

会報編集委員長 菅村 浩

設立10周年記念誌の発行とホームページのメンテナンスと更新を行いました。

また、ホームページの更新については、出来るだけ早く行事の案内や結果を掲載しました。過去の情報も参照できるようにしています。行事の結果については、写真を多く掲載するようにしました。本部や他の支部とのリンクを充実させました。これからも関西支部の情報発信をタイムリーに続け、会員の更なる増加と会員相互の情報交換が出来るようにホームページの充実を図ってまいります。

◇名簿管理委員会◇

名簿管理委員長 米元 孝博

- ・会員名簿の作成 2019年5月31日
- ・会員名簿の動静

会員数 2018年6月1日	増員 (+)	減員 (-)	現在の会員数 2019年5月31日	増減
150名	1	3	148名	▲2

◇行事委員会◇

行事委員長 東郷 茂

<人と防災未来センター見学会>

○開催日/2018年10月27日(土) ○参加者/8名

1995(H7)年に発生した「阪神・淡路大震災」から得た貴重な教訓を世界共有の財産として後世に継承し、国内外の地震災害による被害軽減に貢献すると共に、生命の尊さ共生の大切さを世界に発信することを目的に2002(H14)年4月に開設されました。見学当日は、センターの玄関前に10時半に全員集合し、地震関連の西館に入り、被災ジオラマを通り抜けて、シアター映像室に入り、高架道路や鉄道・市役所・病院など公共施設が大きく破壊されるなど、当時の被災状況を見ました。次の部屋では姉を亡くした少女のナレーションで住宅・商店街など街中の破壊・火災状況が放映され、思わず涙が流れました。

次に東館に入りましたが、災害全般の展示がされており、特に昨夏完成した「津波避難体験コーナー」では、参加者が実際に歩行装置に乗って歩く体験をしました。又、今後心配される南海トラフ地震のシミュレーション等の展示もあり防災への心構えを確認できる貴重な時間でした。

見学終了後、近くのレストランに行き懇談を兼ねた昼食をとりましたが、参加者の半数が当時の被災者であり復旧活動者であることもあって、熱い思いの懇談会となりました。今日の神戸市の復興ぶりを見ると、とても24年前の大災害は想像できず、災害を知らない若い世代に継承するために当センターの存在意義は今後も大きいものと思います。



見学者（8名）の方々



災害展示室

<第9回ゴルフコンペ（交流会）>

2018年10月16日（火）に「関が原カントリークラブ」にて開催予定でしたが、体調不良が続出し中止となりました。

<麻雀同好会>

- ・開催日／奇数月の平日 午前10時～午後5時まで
- ・場所／梅田「ミスターりんビル」5～6階（曾根崎警察署斜め向かいのビル）都会のど真中にもかかわらず平日の朝10時から午後5時まで料金がたったの1,050円でソフトドリンク飲み放題という安さです。これに会費1,000円を持ち寄って1位から3位とブービー賞の表彰を行う形式で、禁煙とボケ防止に役立つ健康健全麻雀です。学生・現役時代では良くやったがリタイア後は遠ざかり暇を持って余している方など、ご興味のある方は、お気軽に事務局までご連絡下さい。

◇事務局◇

事務局長 大森 和男

（1）本部（理事会等）、他支部、他同窓会との情報交換と連携活動の推進

- ・理事会（2018.6.23）及び常任理事会（2018.9.22、12.8、2019.5.18）に2名（支部長・事務局長）が出席しました。また、各会議前に開催されました「課題検討ワーキンググループ（WG）」にも出席しました。
- ・2018.9.8：「第5回 同窓会連合会の集い」に2名（支部長・事務局長）出席し、他同窓会との交流・情報交換を行いました。

（2）新規会員の入会促進策の推進

支部と係わりの深い大学の先生方（3名）に関西在住の教え子の紹介をお願いし、個別に入会勧誘活動を行ったところ、1名の方が入会されました。

（3）あぜち 疇地 宏氏 「社会活動表彰」を受賞

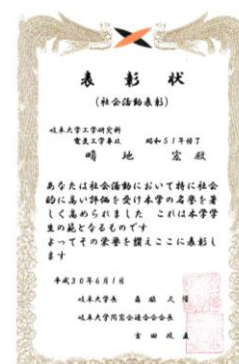
関西支部会員である疇地 宏氏（電気1974卒・76修）が、2018年6月1日（金）（岐阜大学 創立記念日）に岐阜大学講堂において、森脇学長と吉田同窓会連合会々長より「社会活動表彰」を受賞されました。これは、同氏が岐阜大学工学研究科電気工学専攻を修了後、大阪大学レーザーエネルギー学研究中心において40数年にわたりレーザー核融合の研究・開発に携われ、2015（H27）年には権威ある米国原子力学会のエドワード・テラー賞を受賞される等、岐阜大学の名誉を著しく高め学生の模範となる輝かしいご功績が評価されたことによります。



吉田会長

疇地氏

森脇学長



役員紹介

支部長 木内 尚之(1969 機械工学科)

(仕事)

岐大卒業後、大阪の機械メーカーに就職、機械設計技術者として、マテハン関係の設備、特に自動車のプレス、溶接工場、塗装工場、組み立て工場の搬送、検査、仕分け、自動化設備のエンジニアリング、設計業務を担当した。英語が読み、書き、話せるので、海外プラントのエンジニアリング、設計業務も多国に渡り担当した。変わった業務としては東大寺大仏殿の昭和の瓦葺替え設備エンジニアリングである。前回工事は墜落死者が60名を超えたので、昭和は死者ゼロ目標に3案を提案して最も無難で安全なコンベヤ案が採用され、詳細計画を行った。現地チェックで鎖伝いに大仏殿の急な屋根を登り、頂上から奈良市内を見下ろした時は気持ち良かった。死者は零。海外案件は欧州、中国、韓国、東南アジア、豪州、北米、南米と多岐に亘るが、南米には帰国に3日も要し、何故にこんな遠い国まで仕事をするのか？疑問に思った事もあった。

(趣味等)

岐阜大学3年生の時の東南アジア6か国の個人旅行をきっかけに、海外旅行が大好きです。以来、50余年、50余の国に行きました。旅行では色々なトラブルを経験しました。

1. 離陸直後の飛行機が炎に包まれた。
2. 飛行中の機体に落雷した。
3. 乗車予定の列車がストライキで走らない。
4. 乗船予定のフェリーがストで走らない。
5. 宿泊ホテルに火災が発生した。
6. 濃霧で隣国の飛行場に着陸した。
7. 首相が暗殺され、国が大混乱になった。



多くの旅行の中で色々な事が起きたが死を免れたのは日頃の良き行いと思っています。

その他の趣味はゴルフ、仏像彫刻、イタリア語、現在嵌っています社交ダンスです。

(その他)

自分で'風天尚次郎'と言うペンネームを付けて、50余年、50余か国を旅、仕事した自叙伝を執筆中です。タイトルは、「風天尚次郎世界を歩く50余年、50余か国」を予定。イタリアでの単身赴任中に鍛えたイタリア料理を月に1度、家内に食べさせて、家内の胃袋を掴み、夫婦間のトラブル解消のキーにもなっています。

事務局長・総務委員長 大森 和男(1970 精密工学科)

(仕事)

1970(S45)年に大阪ガス(株)に入社。主にパイプラインの保全・建設に携わり、最後は、土砂・アスファルトのリサイクルを行う関係会社に転籍して会社生活を終えました。私にとって会社生活の原点は、忘れもしない入社して間もない大阪万博が開催されている最中の4月8日に起こった「天六ガス爆発事故(死者79名、重軽傷者420名の都市ガス史上最大の惨事)」です。

この事故がキッカケとなって、法律が大改正され、ガス会社の保安も強化され、私もこの影響で保安関係に携わることになりました。そして事故の裁判の支援も担当することになりました。ここで学んだことは、「言った言わないは、証拠にならないが、例えメモ書きでも良いから文字として書いたものは証拠として効力を発揮する」でした。この教訓は、現役中は勿論のこと、完全にリタイアした今でも実生活で生きています。



(趣味等)

趣味は、唯一29歳から始めた「ゴルフ」で、かれこれ40数年プレーをしています、ある時非常に惨めな思いをしてから、本格的に取り組もうと思い、庭にゴルフネットを張りその中にバンカーを作って練習したり、プロのレッスンに通ったり、テレビのゴルフ教室のビデオを撮って研究等をしましたが、念願のシングルの壁を破ることができず諦めました。最近、プレーできるのもあと残り僅か(10年?)ですので、大いに楽しもうと思っています。

(その他)

支部発展のため微力ではありますが尽力をつくす所存ですので、今後ご支援・ご協力の程よろしく願いいたします。

副支部長・イノベーションプロジェクト委員長 青山 勝沖(1970 工業化学科)

(仕事)

1970(S45)年に飲料等キャップのトップメーカーである日本クロージャー(株) (旧日本クラウンコルク(株))に入社、前半(18年間)は技術・品質管理(品管)、後半(17年間)は営業に携わりました。幸い得意先は大手の清涼飲料、薬用ドリンク、清酒・調味料メーカーに恵まれ給料、賞与のダウンは無く恵まれていました。

技術・品管ではキャップ素材の選定、開発評価、クレーム処理で苦勞しました。その縁で薬用ドリンクの営業となり、来る日も来る日もキャップのデリバリーに奔走しました。品管での不良品の発生、混入には、4M(Man・Machine・Material・Method)の作業日報、工程チェックデータ等を再現し原因究明をして再発を防止することでした。

営業では(受注⇒製造⇒納品⇒集金)という仕事のすべてに、P(plan:計画)⇒D(do:実行)⇒C(check:評価)⇒A(action:改善)の管理サークルを回し、営業の品質管理を実践することを学んだこともあり、会社をリタイヤした今、寄る年波と職業病かも知れませんが、テレビの報道番組を見ていると「事象に対する何故(原因)?の説明(究明)がない」とブツブツ独り言を言うようになっています。

(趣味等)

趣味は「ゴルフ」で、日々ベストスコア更新とエージシュート達成を目標に励んでいます。昨年女子プロトーナメントが我がホームコースで開催されたので、ボランティアしましたが、また今年も開催されますので再度ボランティアしようと検討しています。

もうひとつの趣味は「麻雀」です。長良キャンパス時代に覚え始め、友達の下宿で32時間ぶっ続けたことがあります。麻雀を発明した人はノーベル賞モノです。昨年、インターネットで無料麻雀ができるのを見つけ、最近は毎日のようにその無料麻雀で「段級位戦」に挑んでいます。もちろん関西支部の同好会にも参加しております。



るり溪ゴルフクラブでの交流会コンペにて(後列右端)

(その他)

学生時代は、弓道部に所属し、週3日くらい名鉄新岐阜駅近くの道場に通い、春、秋の合宿で伊勢神宮の道場で東海地区国立大学対抗リーグ戦に出場したり、武道館での全日本射詰め大会に出場したりしました。

行事委員会 岡田 敏嗣(1974 電気工学科)

(仕事)

昭和49年春、大学卒業後松下電工(株)に入社。住宅設備関連の営業担当として、大阪地区での企画営業を担当し、昭和54年春に父が経営する明花電業(株)に入社しました。明花電業は電設資材卸売業で、兵庫県を地盤として電気工事店・工場・ビル等に照明・空調・高圧機器・情報機器・ケーブル・配管材料等を販売する。設備図面から積算助成やメーカーを巻き込んだコストダウン設計提案や工場などへの省エネ提案を展開しています。

異業所交流で、自然エネルギーの啓発を目的に2001年に「ワット神戸」を立ち上げました。太陽光発電の推進や小型風力発電の設置展開を行い、2005年に環境大臣賞の表彰を受けました。2016年から経済産業省の外郭団体「環境共創イニシアチブ」より、「地域省エネ相談センター」を委嘱されて、地元中小企業の省エネのアドバイスを実施しています。



(趣味等)

硬式テニス部での活動では、大学2年次に2部リーグ優勝後、南山大学と1部入替戦を行いました。4対3でリードしていましたが、8試合目の途中で日没?ということで、試合途中で翌日に順延になりました。名古屋城コートに場所を移して再開です。一球一球に声援を送る接戦でしたが、粘り勝ちで1部(トップ4校)昇格を果たしました。今から振り返っても嬉しい記念すべき試合でした。

行事委員・イノベーションプロジェクト委員 粟野 順二郎(1964 工業化学科)

(仕事)

1964(S39)年4月、松下電器産業㈱に入社。松下電子部品㈱で可変抵抗器用抵抗体の抵抗塗料・導電塗料の開発・量産化をしていたが、松下電器産業がビデオに進出するので松下電子部品で培った塗料化技術を持ってビデオテープの基本技術の確立と量産化・新製品開発・工場建設に尽力した。その後は、松下電池工業㈱に移籍し、電池部材の開発・量産化に寄与した。

松下電器産業には、電気系や機械系の社員が大半で、私のような化学系は極めて少なく化学系ならではの材料を変えて性能向上や新製品開発・新工法開発を行い事業経営に大きく貢献をした。特筆すべきは、ロールコーター導入による抵抗体無選別化に成功し、リチウムイオン電池の活物質：コバルト酸リチウム(LiCoO₂)の新工法開発・量産化に成功し、月産250トンで4.5億円もの利益が出た。松下電器産業で学んだことは『川上に手を打つものづくり』で、真理であると実感している。

退職後は、中小企業N社で社長後継者の育成、T社ではQCサークルで年間5000万円の製造合理化・新検査工法の開発・特許出願・量産機の導入で大いに喜んで頂いている。また中小企業の育成・指導に「近畿産業技術クラスター協同組合」の理事長として貢献している。

(趣味等)

近所に30坪ほどの農園を借りて、トマト・茄子・キュウリなどの夏野菜と、白菜・大根・キャベツなどの冬野菜を栽培、百日草・菊などの花作りを楽しんでいる。



行事委員長 東郷 茂(1974 土木工学科)

(仕事)

発展途上国でのインフラづくりを夢に土木工学科を選んだのですが、3年時に胃潰瘍を患い体力の無さを痛感しました。そのため一転して1973(S48)年に大阪府土木部に奉職し、主に河川・砂防工事を担当しました。37年間のうち琵琶湖総合開発完成・関空開港、狭山池ダム竣工、津波高潮ステーション開館という節目に関わることができて幸運でした。その後は、建設会社に6年間在籍し、そのご縁で今は茨木市北部の安威川ダム建設現場において案内・PRに携わっています。



H30.10. ハイキング部同期会(後列中央)

(趣味等)

体が弱く特に球技がダメだったので、大学時代はハイキング部に入りました。名称からして可愛い女子達と楽しくピクニックするクラブだと思って入ったのですが、入部早々大きなキスリングザック・寝袋・キャラバンシューズを買わされ、鈴鹿山地へテント合宿が始まりました。最初の夏合宿は北アルプス裏銀座コース、18歳の誕生日に雲ノ平で満天の星空を見て、山歩きが楽しくなりました。高さや荷物はずっと小さくなりましたが、今でも年数回は近畿の山を歩いています。

(その他)

行事委員として見学会等を企画しています。お勧めの見学先があればお知らせください。

副支部長・名簿管理委員長 米元 孝博(1975 機械工学科)

(仕事)

1975(S50)年に岐大卒業し、花王(株)に入社。各地の工場で紙関連新製品の生産設備の設計・建設に従事しました。最初の配属が東京だったため、同期卒業のK君と当時まだ、若者の街だった渋谷、新宿を飲み歩き、楽しかった思い出が今でも残っています。仕事では、前例のない特殊な設備が多かったため各専門業界の超個性的な業者といっしょに仕事をする機会にめぐまれ、それなりに楽しい日々を送ることができました。



岐阜会の「十八楼」前にて

退職後は、行政等から法定検査(はかりの検査)の仕事を受託され、マイペースで実施しています。志水先生の計測工学が、今でも懐かしく思い出されます。

(趣味等)

仕事でいろいろな地方に行くことが多く、前述のように個性的な業者とのつきあいがあったため、各地のあまり知られていない名産品(工芸品、グルメ)を教えてもらったので、現在もそのようなものを見つけ出すことを楽しんでいます。

(その他)

入学時(1971年)の仲間と鶴飼観覧船乗り場近くの「十八楼」で岐阜会と称して毎年、飲み会を開いています。十八楼の前は、長良キャンパスへの通学路で薄暗い通りのイメージだったけど今は、川原町として岐阜の観光地区に大変身しているのでびっくりしています。もう直ぐ入学50周年になる。

会報編集委員長 菅村 浩(1981 繊維工学科)

(仕事)

1981(S56)年、小泉製麻(株)に入社しました。滋賀工場の保全担当として機械のメンテナンスを行っていましたが、すぐに新規事業として設立された小泉コンピューター(株)に出向になりました。それからは、情報システム関係の仕事を中心に35年間従事してきました。特にCADなどの設計・開発に関連するソリューションを川崎重工関連企業などに提供してきました。2016年からは、M&Aにより現在のパスコ(株)で情報システム事業を継続しています。



思い出深い経験としては、日本アイ・ビー・エム(株)と共同で「MICROCADAM」という設計ツールを開発・製造し設計の業務改革に貢献できたことです。「MICROCADAM」を使用することで設計業務が、ドラフターからCADの設計へ大きく変化しました。

会社経営の経験から事業継続の厳しさ、お客様対応の難しさを痛感しました。お客様第一の精神を心がけ、お客様の為に仕事をする事を学ぶ事ができました。M&Aによる様々な契約移管手続きがありましたが、お客様に迷惑をかけることなく事業を継続できたことが私の誇りです。これからもお客様の為に仕事を続けることができれば幸いです。

(趣味等)

コインの収集を少ししています。大蔵省造幣局が製造している記念硬貨の収集です。銀貨が中心ですが、一部金貨もあります。東京オリンピックの記念硬貨を沢山集めたいと思っていますが、抽選で購入が決まるので、人気のコインは、数十倍の競争になります。地方自治法施行60周年記念銀貨は、47都道府県全部収集することができました。

これからも収集を楽しみたいと思います。

(その他)

関西支部設立当初から会報編集委員会に所属し、会員の皆様に情報発信をさせていただいています。これからも、会報の充実を図りたいと思っています。関西支部発展のため微力ではありますが全力をつくす所存です。支部への積極的なご参加と沢山のご意見や情報をお待ちしています。よろしくお願い申し上げます。

岐阜大学工業倶楽部 関西支部 10年の歩み

2009年				
4/19(日)	設立総会 66名 (来6.会60)	講演 岐阜大学 理事・副学長 安田 孝志氏 講演 岐阜大学工業倶楽部会長 磯貝 徹氏 講演 岐阜大学 工学部長 若井 和憲氏	 	大阪弥生会館 (大阪市北区 芝田)
10/24(土)	講演会 39名	講演 太田 璋氏 (1963(S38)年工業化学卒) 演題 「注目されるHEVの10年前と現在」 — 蓄電池開発と事業に携わって—	 	日本生命 御堂筋ビル 6階会議室 (大阪市中央区)
2010年				
2/28(日)	見学会 16名	「関空二期を知る」 案内 奥田 豊氏	 	関西国際空港
6/6(日)	第2回 定期総会 45名 (来6.会39)	講演 岐阜大学 理事・副学長 八嶋 厚氏 演題 「学び、究め、貢献する岐阜大学」 講演 アイエムアール代表取締役 岩井正樹氏 (元本田技研工業株専務取締役) 演題 「経験を生かす60歳からの仕事」		大阪弥生会館 (大阪市北区 芝田)
12/3(金)	交流会 11名	第1回 ゴルフコンペ	 	茨木国際カントリー 倶楽部 (大阪府茨木市宿久 庄)
2011年				
6/26(日)	第3回 定期総会 40名 (来4.会36)	講演 岐阜大学 副学長 岡野 幸雄氏 演題 「岐阜大学の現状」 講演 化テック代表取締役会長 岩田義文氏 演題 「企業(化テック)の変遷」		ホテルコムズ 大阪 (大阪市北区 豊崎)
7/9(土)	見学会 22名	大阪府「津波・高潮ステーション」	 	津波・高潮 ステーション (大阪市西区江之子 島)
11/8(火)	見学会 10名	「お江に関わる安土城址」歴史探索	 	安土城 考古博物館 安土城址 (滋賀県近江八幡市 安土町)
11/9(水)	交流会 15名	第2回 ゴルフコンペ (工業化学科39会との合同コンペ)		ダイヤモンド滋賀 カントリークラブ (滋賀県甲賀市土山 町)

2012年				
6/17(日)	第4回 定期総会 36名 (来3.会33)	講演 岐阜大学 学長 森 秀樹氏 演題 「岐阜大学の現状と課題」		ホテルコムズ大阪 (大阪市北区豊崎)
10/12(金)	見学会 15名	「岐阜大学跡地訪問と 長良川鶺鴒見物の旅」	 	岐大(柳戸)→長良学 舎→各務原那加学舎 →長良川鶺鴒
11/14(水)	交流会 7名	第3回 ゴルフコンペ (工業化学科39会との合同コンペ)		ダイヤモンド滋賀 カントリークラブ (滋賀県甲賀市土山 町)
2013年				
6/23(日)	第5回 定期総会 44名 (来3.会41)	講演 岐阜大学 工学部長 六郷 恵哲氏 演題 「創立70周年を迎え、 改組・改修・改革」		大阪弥生会館 (大阪市北区芝田)
10/8(火) ~9日(水)	交流会 7名	第4回 ゴルフコンペ (工業化学科39会との合同コンペ)	 	オオタにしき ゴルフクラブ (兵庫県篠山市 遠方)
2014年				
6/22(日)	第6回 定期総会 47名 (来4.会43)	講演 岐阜大学 副工学部長 野々村 修一氏 演題 「太陽光発電の現状と将来像」		大阪弥生会館 (大阪市北区芝田)
7/12(土)	見学会 17名	「梅田界限噴水めぐり」 ①阪急三番街アカマジック ②JR大阪駅水の時計 ③西梅田ガーデンセンター ④グランフロント大阪の滝	 	大阪・梅田周辺
9/3(水)	工専時代 の話を 聞く会 9名(内役 員6名)	岐阜県立工業専門学校化学工業科を 1948年に卒業された石原清氏・柴田五郎氏 ・村山涼二氏と懇談	 	備後町クラブ (大阪市中央区備後 町)
10/8(水)	交流会 14名	第5回 ゴルフコンペ (西濃支部・工業化学科39会 との合同コンペ)	 	ダイヤモンド滋賀 カントリークラブ (滋賀県甲賀市土山 町)
11/22(土)	見学会 18名	㈱ダイク「日に新た館」・カソーラー見学 と「永源寺」紅葉狩り	 	㈱ダイク滋賀 事業所 (滋賀県蒲生郡日野 町) →永源寺 (滋賀県東近江市永 源寺)

2015年				
6/21(日)	第7回 定期総会 51名 (来4,会47)	講演 大阪大学レーザー・エネルギー学研究中心 センター長 疇地 宏氏(76年電気科修了) 演題 「レーザー核融合の今昔」	 <small>岐阜大学工業倶楽部 関西支部 第7回定期総会 2015年6月21日(日)開催 会場:大阪弥生会館</small>	大阪弥生会館 (大阪市北区芝田)
7/25(土)	プロジェクト 活動 6名	創立10周年記念事業プロジェクト (検討開始)		備後町クラブ (大阪市中央区備後町)
10/6(火)	見学会 11名	大阪大学レーザー・エネルギー学研究中心 見学会	 	左同(大阪府吹田市山田丘)
10/8(木)	プロジェクト 活動 6名	イノベーションプロジェクト活動方針(案)提示 (検討開始)		備後町クラブ (大阪市中央区備後町)
10/28(水) ~29(木)	交流会 13名	第6回 ゴルフコンペ (工業化学科39会との合同コンペ)		るり溪ゴルフクラブ (京都府南丹市園部町)
11/1(日)	記念事業 18名	岐阜大学工業倶楽部設立70周年 記念事業バスツアー	 	岐阜大学・講堂 (岐阜市柳戸)
11/15(日)	見学会 14名	阪神高速 震災資料保管庫	 	阪神高速 震災資料 保管庫 (神戸市東灘区深江浜町)
2016年				
6/19(日)	第8回 定期総会 44名 (来4,会40)	講演 岐阜大学 学長 森脇 久隆氏 演題 「岐阜大学の現状と展望」 ー第3期を見据えてー	 <small>岐阜大学工業倶楽部関西支部 第8回定期総会</small>	茨木市福祉文化会館 (オークシアター) (大阪府茨木市駅前)
6/29(水)	発表会 2名	第6回 関西ものづくり技術シーズ発表会 主催:近畿経済産業局 内容:発表7件中、岐大から5件発表		大阪府立男女共同参画・青少年センター(トーンセンター) (大阪市中央区大手前)
7/13(水)	見学会 15名	スプリング8とニュースハル見学会	 	兵庫県立大学:ニュースハル (兵庫県赤穂郡上郡町光都) →スプリング8 (兵庫県作用郡佐用町光都)
10/3(月)	同好会 (ゴルフ) 7名	第1回 ゴルフ同好会 発足コンペ		レクスワンカントリー倶楽部 (兵庫県加東市秋津)

2016年			
10/3(月)	同好会 (ゴルフ) 7名	第1回 ゴルフ同好会 発足コンペ	レイクスワンカントリー倶楽部 (兵庫県加東市秋津)
10/20(木)	交流会 11名	第7回 ゴルフコンペ (工業化学科39会との合同コンペ)	桑名国際ゴルフクラブ (三重県員弁郡東員町)
12/8(木)	同好会 (麻雀) 5名	第1回 麻雀同好会 発足	菜の花 (大阪市北区曽根崎)
2017年			
6/18(日)	第9回 定期総会 40名 (来4.会36)	講演 岐阜大学 副学部長 村井 利昭氏 演題 「岐阜大学から発信する元素化学」 講演 岐阜大学 副学長 王 志剛氏 演題 「岐阜大学の現状報告と産学連携推進状況について」	茨木市福祉文化会館 (オークシアター) (大阪府茨木市駅前)
10/7(土)	見学会 10名	安威川ダム見学会	安威川ダム・同資料館 (大阪府茨木市大字大門寺)
11/28(火)	交流会 9名	第8回 ゴルフコンペ (工業化学科39会との合同コンペ)	ダイヤモンド滋賀カントリークラブ (滋賀県甲賀市土山町)
2018年			
1/11(木)	同好会 (麻雀) 8名	第2回 麻雀同好会	菜の花 (大阪市北区曽根崎)
6/1(金)	社会活動 表彰 疇地 宏氏	岐阜大学 森脇学長 岐阜大学同窓会連合会 吉田会長より 疇地(あぜち) 宏氏「社会活動表彰」を受賞	岐阜大学 (岐阜市柳戸)
6/10(日)	第10回 定期総会 40名 (来4.会36)	講演 岐阜大学 名誉・特任教授 六郷 恵哲氏 演題 「地域のインフラメンテナンス分野 への岐阜大学の貢献」 講演 岐阜大学副学長 王 志剛氏 演題 「岐阜大学の現状報告と産学連携 について」	茨木市福祉文化会館 (オークシアター) (大阪府茨木市駅前)
10/27(土)	見学会 9名	人と未来防災センター見学会	人と未来防災センター (神戸市灘区岩屋)

関西支部 歴代役員 履歴

卒業年順・五十音順

役員名 : 在任期間

氏名	学科	卒業年 (修了年)	2009年 (H21)	2010年 (H22)	2011年 (H23)	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (H31・R1)
			設立総会	第2回総会	第3回総会	第4回総会	第5回総会	第6回総会	第7回総会	第8回総会	第9回総会	第10回総会	設立10周年
渋谷 欣司	機械	1959	名簿管理委員長										
清水 範生	機械	1963				会計監査				総務委員			
福岡 悟	土木	1963								総務委員	総務委員・会報編集委員		
浅沼 良行	機械	1964			総務委員長		副支部長・総務委員長			会計(主)		行事委員	
栗野 順二郎	工化	1964			行事委員長					行事委員			
平井 佳紀	工化	1964				会計監査				会計監査・会報編集委員			
藤井 孝友	機械	1964				支部長					総務委員		
田中 健晴	土木	1965			会報編集委員長		会報編集委員						
水野 毅	電気	1967			名簿管理委員			10/4退任					
木内 尚之	機械	1969		会報編集委員			会報編集委員長				支部長		行事委員
三戸見 健	繊維(修)	1969(71)		名簿管理委員			名簿管理委員長						
青山 勝沖	工化	1970								副支部長・行事委員			
井上 和夫	精密(修)	1970(72)		副事務局長・総務委員						副事務局長・会報編集委員			
大森 和男	精密	1970				会計(主)			事務局長・名簿管理委員		事務局長・総務委員長 ・名簿管理委員		
塚口 義清	機械	1971				会計(副)			会計(副)・行事委員	行事委員	会計(副)	行事委員長	
村瀬 成一	精密	1971							総務委員		会計監査		
馬場 廣美	電気	1972								会計(副)	会計(主)		
上田 千秋	工化(修)	1973(75)		名簿管理委員						総務委員長		総務委員	
東郷 茂	土木	1973			行事委員					行事委員長			会計(副)
岡田 敏嗣	電気	1974								行事委員			支部長
川那邊 修	土木	1974								会報編集委員			
阪上 丈一	精密	1974		事務局長・総務委員						副事務局長・総務委員			
若林 伸紀	精密	1974			行事委員								
湊 紀夫	土木	1975										会報編集委員	
米元 孝博	機械	1975					副事務局長・総務委員			副事務局長・名簿管理委員長			
坂口 満明	合化(修)	1976(78)											会報編集委員
菅村 浩	繊維	1981			会報編集委員					会報編集委員長			
小野山 爾	繊維	1982										行事委員	
中井 好一	土木	1989									総務委員		
江尻 武弘	土木(修)	1997(99)	名簿管理委員		名簿管理委員 ・行事委員								
合計			19名	19名	19名	19名	19名	20名	20名	20名	19名	21名	19名

・学科の「工化」は「工業化学科」の略、「合化」は「合成化学科」の略。

岐阜大学工業倶楽部関西支部 規約

制定：2009年4月19日

改定：2012年6月17日

改定：2013年6月23日

第1条（名称及び事務局）

本会は、岐阜大学工業倶楽部 規約第14条に基づき設置するもので、岐阜大学工業倶楽部関西支部（略称：岐大工 関西）と称する。事務局（連絡事務所）は事務局長の責任で設置する。

第2条（会員）

本会は次の会員で組織する。

- ・正 会 員：岐阜大学工学部、大学院工学研究科、旧岐阜大学工業短期大学部及びその前身学校の出身者であって、関西地区（大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県）に在住または勤務しているか、その経験のあるもの及びこの地域で事業を営むもので、入会手続きを行ったものとする。なお、関西地区以外に勤務、在住する入会希望者は役員会の承認を経て正会員に加えるものとする。
- ・準 会 員：岐阜大学出身者で、本会の目的に賛同し本会の事業に参加する個人で、役員会の承認を経たもの。会員資格は正会員に準ずるものとする。
- ・特別会員：母校の元教員で関西地区に在住するもの。
- ・賛助会員：本会の目的、行事等に賛同する個人または法人で役員会の承認を経たもの。
- ・名誉会員：本会に対して特に功労のあった会員で役員会の承認を経たもの。

第3条（目的）

本会は会員相互の親睦・交流を図るとともに、情報交換や技術の交流を推進して母校の隆盛と工業の発展に寄与することを目的とする。

第4条（事業）

第3条の目的を達成するために次の事業を行う。

- ①総会の開催、②講演会、見学会、懇親行事の開催、③会報の発行、④会員情報の収集と管理
- ⑤岐阜大学工業倶楽部本部事業への協力と提案、⑥その他必要なこと

第5条（役員）

本会は支部長1名、副支部長若干名、幹事若干名、会計2名、会計監査2名、事務局長1名、及び副事務局長若干名を置き、会務を処理する。なお、役員会の承認を経れば役員の兼任は妨げないものとし、また必要に応じて名誉役員をもうけることができる。

第6条（役員の仕事）

- ・支 部 長：本会を代表し、本会の会務を統括する。
- ・副 支 部 長：支部長を補佐し、支部長に事故あるときはこれに代わる。
- ・幹 事：支部長を補佐し、会務を分掌する。幹事と事務局員は別途細則で定める委員会を構成し、会務を遂行するものとする。
- ・会 計：本会の会計を分掌する。
- ・会 計 監 査：本会の経理を監査する。
- ・事 務 局 長：本会の会務事務を統括する。
- ・副事務局長：事務局長を補佐し、事務局長に事故あるときはこれに代わる。

第7条（役員の出選と任期）

役員は役員会で選出し総会に推薦の上、承認を得る。役員の仕事は2年とし再任を妨げない。

第8条（会議）

- ・総会：毎年1回開催する。支部長が議長を務め、事務局長は前年度の事業報告、会計報告と新年度の事業計画、予算その他重要事項を報告し承認を受ける。総会の議決は出席者の過半数の賛成を以って決定する。
- ・役員会：支部長、副支部長、幹事、事務局長、副事務局長、会計及び会計監査で構成し、事務局長が議長を務める。規約の改訂など重要事項を審議する。

第9条（会計及び事業年度）

本会の会計年度は6月1日に始まり、翌年の5月31日に終わるものとする。

第10条（会費）

本会の経費は年会費、本部交付金、行事開催時に徴収する臨時会費、賛助会員入会金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。会費の額は役員会で決定するものとし、会員は遅滞なくこれを納入するものとする。

第11条（入退会）

本会への入会は入会申込書の提出と会費の納入をもって行うものとし、退会は退会届の提出をもって行うものとする。

第12条（規約の改廃）

本規約の改廃は事務局長が総会に諮り、出席者の過半数の賛成により決定する。

第13条（補則）

- ・本規約を補足するものとして細則を定める。細則は役員会で定める。
- ・本規約及び細則に定めなき事項については、必要に応じて役員会において決定する。
- ・本規約は2013年6月23日の第5回総会にて承認発効する。

岐阜大学工業倶楽部関西支部 細則

制定：2009年4月19日

改定：2012年6月17日

1. 総会
 - ・原則として1回/年開催するものとする。但し、役員会で決定すれば、臨時総会を開催することができる。
 - ・総会に合わせてできる限り講演会、懇親会等を開催するものとする。
2. 役員会
 - ・開催時期：事務局長の招集により、原則として3回/年開催するものとする。
但し、役員会で決定すれば、臨時役員会を開催することができる
 - ・役員会成立条件：過半数の役員の出席をもって成立するものとする。
3. 会報の発行
 - ・原則として1回/年発行するものとする。
 - ・会報は総会案内書に同封して会員に郵送するとともにホームページに掲載する。
4. 委員会等
 - ・会務を円滑に推進するため、下記の委員会を役員会の下部組織として設置する。

名称	主たる任務	委員長	副委員長及び委員
総務委員会	(1)総会の開催及び取りまとめ ・役員改選 ・事業報告及び事業計画書(予算を含む)の作成 ・その他会則の改廃の取りまとめ など総会報告事項の取りまとめ (2)役員会の開催及び取りまとめ (3)入会勧誘の企画	役員会にて幹事より互選	委員長が任命する。
名簿管理委員会	・会員情報の収集と管理 ・入会勧誘の支援	同上	委員長が任命する。
行事委員会	・講演会、見学会、懇親会やその他の行事の企画 案内及び開催(ただし、総会を除く)	同上	委員長が任命する。
会報編集委員会	・会報の編集、発行 ・ホームページの管理業務、ホームページ管理者	同上	委員長が任命する。

- ・各委員会の開催時期は委員長が決定する。
- ・各委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- ・会員との連絡業務(郵送、メール、電話等)を円滑に行うため、別途役員で分担する連絡担当幹事を置く。

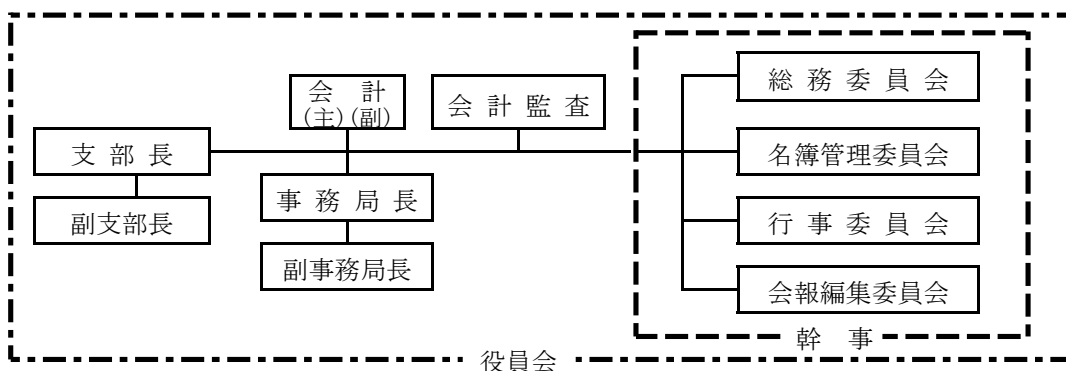
5. 会費
 - ・規約第10条に定める会費は下記とする。

区分	入会金(円)	年会費(円)	臨時会費	
正会員	—	2,000	行事毎に役員会で決定	
準会員	—	—	同上	
特別会員	—	—	同上	
賛助会員	個人	3,000	3,000	同上
	法人	3,000	30,000	同上
名誉会員	—	—	同上	

- ・いったん納入された会費、入会金は理由の如何を問わず返却しない。
- ・会員に対し本会の発行する会報を無償で提供する。
- ・会費の納入は原則として郵便振込みで行うものとする。

6. 入退会手続き
 - ・入会申込書及び退会届の様式を本細則の付属書として定める。
 - ・入会申込書及び退会届はホームページに掲載し、郵送、FAX又はEメールにて支部長に提出するものとする。
- 付則 本細則は2012年6月17日 規約改定の発行をもって施行する。

関西支部 組織図



☆「関西支部 設立10周年記念 定期総会」の開催について

○開催日/2019年7月7日(日)

○会場/茨木市福祉文化会館(オークシアター) 総会・講演:303号室、懇親会:302号室
茨木市駅前4-7-56(昨年と同会場、JR茨木駅・阪急茨木市駅より徒歩約8分)

○テーマ/『おもしろ おかしく 世代を超えて 関西の“絆”を深めよう!』

○特別講演/岐阜大学 学長 森脇 久隆 氏

演題 『岐阜大学の現状と課題について』

特に、名古屋大学との統合について、最新状況・構想等についてご講演頂きます。

○記念講演/岐阜大学 工学部 機械工学科 准教授 菊地 聡 氏

演題 『空力浮上高速交通システム エアロトレイン』

列車か、飛行機か、リニア並みの時速500kmを目指す100%自然エネルギーの未来列車の開発。

○奇術/GAMA企画 川口 雅昭 氏

小学生の時に電器店のTVで観た^{たける}コインマジックが始まりで奇術歴60数年、アマチュア奇術界では有名な方です。

○落語/「ながら家千兵衛」こと古澤 長流 氏(岐阜大学 応用生物科学部卒 落語研究会出身)

2017年「第8回てんしき杯学生落語王者決定戦」で36大学122名の中から見事王者になりました。

☆編集後記

関西支部 設立10周年の節目を迎え、毎年発行していましたが「会報」を「設立10周年記念誌(会報 第10号)」といたしました。

この記念誌の発刊に当たり、岐阜大学 森脇学長をはじめ 村井工学部長、坪内工業倶楽部会長、片岡西濃支部長、堀尾関東支部長からご多忙の中、設立10周年の祝意をお寄せいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

記念誌として、従来の会報で掲載していましたが支部活動の報告の他に、岐阜大学 工学部 機械工学科 菊地准教授の『設立10周年記念定期総会』での記念講演の概要や、主な支部役員をよく知っていただくために役員が携わった仕事や趣味等の紹介、支部設立から今日までの「10年歩み」と題してこの間に開催されました総会、見学会、交流会、講演会など多くの会員の皆様にご参加いただいた活動を思い出していただけるような写真を掲載いたしました。

感慨深い行事としては、「岐阜大学工業倶楽部 設立70周年記念事業バスツアー」と「岐阜大学跡地訪問と長良川鶴飼見物の旅」でした。初参加の会員の方々も多数参加され会員相互の交流が深まり大変有意義な会となりました。

関西支部の会員の皆様と共に設立20周年に向けて岐阜大学・工学部・工業倶楽部本部各支部とも連携し、支部の目的でもあります会員相互の親睦・交流を図りますとともに、情報交換や技術の交流を推進して行きたいと思っております。そのためにも会員の皆様の積極的なご参加とご意見をお待ちしています。

最後になりましたが、当記念誌の編集にあたり、原稿をお寄せ頂きました皆様方、ご協力頂きました編集委員の方々に心から感謝申し上げます。 2019年5月 会報編集委員長 菅村 浩

<名簿管理委員会から会員の皆様へお願い>

会員の皆様から頂きました“入会申込書”等の個人情報は、「会員皆様への情報発信」と「会員相互の交流・連絡等」を図る重要なツールであります。これら支部活動を迅速・円滑に進めるためにも絶えず最新の情報として整理しておく必要があります。

そのため、住所、電話番号、メールアドレス等、お届け頂いている会員皆様の情報に変更が生じた場合や、メールアドレスを新規に取得された場合には、お手数ですが直ちに事務局までご連絡をお願いいたします。今後とも会員の情報管理には万全を期し、支部活動にのみ活用させていただきますので、ご協力の程よろしくをお願いいたします。

事務局へのご連絡、お問い合わせ

岐阜大学工業倶楽部 関西支部 事務局長 大森 和男
〒554-0012 大阪市西区立売1丁目4番9号中井産業ビル4F
Tel : 090-3996-3306 Fax : 072-738-3369
E-mail: nrh53171@nifty.com
ホームページ: <http://gifudai-kansai.g.dgdg.jp/>

岐阜大学工業倶楽部 関西支部
発行人 支部長 木内 尚之
編集人 会報編集委員会
委員長 菅村 浩、委員 福岡 悟、平井 佳紀、
井上 和夫、湊 紀夫